

文学館だより

平成29年 8月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 貴 日 高

樹は妙に草うるはしき青の国日向は夏の香にかをるかな

歌集未収録

第7回

牧水短歌甲子園



会場：日向市中央公民館

日程：平成29年8月19日(土)

【午前の部】 9:20～12:00 1次リーグ4試合

【午後の部】 12:45～17:30 1次リーグ8試合

平成29年8月20日(日)

【午前の部】 9:00～12:00 準決勝・決勝

講評・表彰式

審
査
員



熱い夏がやってきます

初七日の朝の小ビンに
曾祖母の吊花が白い根を張りだした

きみが好き「th」の発音とか
自転車を漕いでる背中の角度とか、とか、

ドップラー近づき変わる君の音
揺れる私の心の波長

(第6回牧水短歌甲子園より)

遠くは岩手県より参加。歌人をうならせる秀作が並び、高校生が自作短歌に込めた想いを熱く、熱くぶつけ合います。日常をかいま見る等身大の短歌あり。クスッと会場が和む短歌あり。見ごたえ十分の二日間です。

宮崎県内からは次の6校が出場します。

宮崎商業高校 昨年度優勝

延岡高校 一昨年優勝

宮崎西高校 昨年度準優勝

延岡学園尚学館高等部

日向高校

富島高校

短歌の想いを青少年の主張で発表。NHK 短歌 de 胸キュン出演等大活躍。牧水母校。毎年牧水忌に合わせて校内短歌コンクールを実施。

過去4回出場。優勝1回、準優勝2回、3位1回とすべて入賞を果たす。

過去6回すべて本選出場を果たしている常連校。

過去4回出場。地元高校の入賞を期待するところです。

昨年度初出場。日向高校同様地元高校の入賞を期待しています。

入場無料です。ぜひ会場で高校生の文化系バトル、短歌甲子園を味わってみませんか。スポーツ同様、感動、まちがいなし！ です。会場でお待ちしております。

牧水創刊「創作」878冊

県立図書館に贈られる

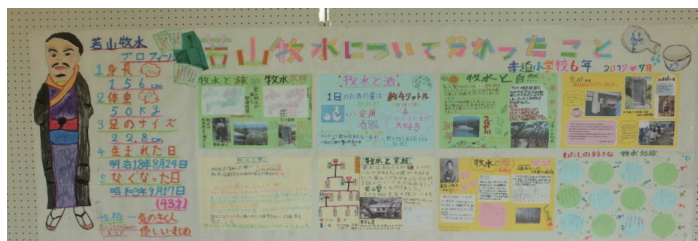
寄贈者：竹中 敬一 氏 愛知県日進市在住
敬一氏の父 故竹中 皆二(かいじ)氏は牧水の高弟で、昭和47年から22年間にわたり「創作」作品選考を務められた。

寄贈資料：『創作』
大正9年4月号～平成8年12月号 全878冊

「創作」は明治43年、26歳の牧水が主宰者となり誕生しました。牧水没後は妻喜志子が引き継ぎ、長男旅人、次男富士人、とみ子夫人と引き継がれ、現在は孫聚一氏が代表を務めていらっしゃいます。平成26年より隔月発行されており、最新号は第104巻7月号です。早速、県立図書館に出向き、閲覧して参りましたが、右のとおり製本がしっかりなされ、立派な保存状態でした。



県立図書館館長室にて保管



7月11日、日向市立寺迫小学校6年生（12名）へ、牧水出前授業に行ってきました。

牧水の本名、生涯で詠んだ歌の数、全国に設置されている歌碑の数、意外なところで身長、体重、足のサイズまで話してきました。

学習後、「若山牧水について分かったこと」として、上のようにまとめ、文学館に届けてくださいました。

寺迫小学校には歌碑もあります。短歌朗詠をして一日が始まる子どもたちにとって若山牧水は身近な歌人に違いありません。牧水かるた以外の短歌にこれからたくさん出会っていくことでしょう。まだまだ知らないこともたくさんあることでしょう。郷土が生んだ若山牧水について、もっともっと詳しくなってくれるとうれしく思います。



7月15日、名古屋市より歌人、野口あや子さん（右）と友人鈴木友季子さんが来館されました。宮崎市で開催されるミニコンサートで牧水短歌を朗読されるとのことでした。

九州は初めてとあり、あれこれ大感激のご様子でした。

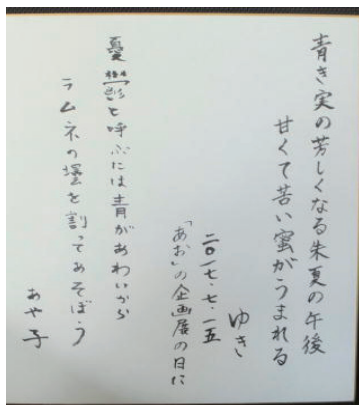
野口さんは、15歳の時から独学で短歌を始め、第一歌集『くびすじの欠片』で第54回現代歌人協会賞を受賞され、この受賞により、受賞最年少記録を更新された新進鋭、期待の歌人です。

企画「牧水の青」展をご覧になり、右の短歌を詠んでくださいました。

そして、もう一首

**宮崎のこどばの緩にたゆたいて
海辺に衣のように延ぶ彼**

あや子



「この味がいいね」と君が言ったから 七月六日はサラダ記念日



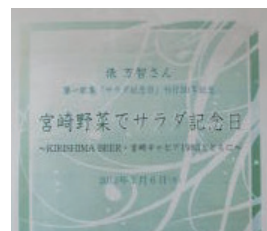
この短歌、ご存知ですか。
現在、宮崎市在住の歌人俵 万智さんの30年前の短歌です。
口語体で親しみやすく、短歌が身近に思えた衝撃的な出会いでした。

この短歌が収められている第一歌集『サラダ記念日』が出版されて今年で30年。

新鮮な宮崎野菜他がいろいろを添え、30周年のお祝いが7月6日、宮崎市で開催されました。

石垣島にいた頃も宮崎野菜をお取り寄せしていたこと、佐土原ナス生産者が実は伊藤館長の娘婿であること、さらには、30年の時を経て、この一首ができた当時の背景などエピソードが次々に明かされ、驚きと新発見の楽しいひとときでした。

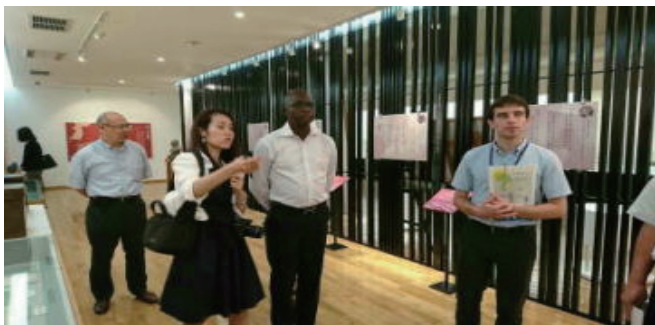
なお、俵さんは現在、文芸雑誌に「牧水の恋」を連載中です。



トーゴ共和国大使が来県。宮崎大学で講演をされるにあたり、県内各地を視察されました。そんな中トーゴ共和国と語感が似ているということから、日南、日向両市の東郷町も訪問が決まりました。

7月13日は馬ヶ背などの市内観光。当文学館には翌14日、来館されました。興味をもたれたか、「どうして若くして亡くなったのか」「酒を飲んでいる時とそうでない時の字はどう違うのか」など熱心に質問しながら見学されました。

皆さんはその後、坪谷小学校に行かれ、子ども達と交流を深められました。



駐日トーゴ共和国大使館臨時代理大使
アフォニョン クアク セダミヌ氏(中央)

8月24日は

牧水が（生家縁側で）「ことんと音をさせて生まれた」日。

今年で生誕132年を数えます。

延岡では毎年「生誕祭」が開催されます。

わたしたちは、これからもずっと若山牧水を顕彰していきます。